

2005年1月25日

京都大学未来フォーラム（第10回）を開催

京都大学では、恒例となった未来フォーラムの第10回を時計台記念館・百周年記念ホールで開催しました。今回は山中康裕教育学研究科教授の司会で、本学文学部卒業生で俳人協会常務理事・関西支部長の辻田克巳氏に「俳句という玩具」をテーマに講演していただきました。辻田氏は、俳人としての豊富な経験をもとに、俳句の材料や素材は日常のもので、それを使って非日常を表す自己完結であることや、人間には遊ばずにはいられない本性があり、物事のおもしろみや意味を十分理解して、味わい楽しみながら詠むことが大切であること、また、俳句を詠むことは、俳優が舞台上上がるのと同じであることなどを、多様な俳句を例にだしながらユーモアを交えて語られました。参加した約200名は、メモをとりながら真剣に聞き入っていました。

